

諏訪子様が
酔いつぶれてたので……



諏訪子様
が
酔いつぶれてた
ので……

今日は年に一回
里じゅうで
宴会が開かれる
祭の日だ

神社の巫女や
神様が里におりて来て
酒を飲み交わし
里の者と親睦を深める
ために催される

……と建前は
されてるが
参加者の皆の
本音はただ
酒を飲みたい
だけである



そろそろ行動に
移ってもいい
頃かな……



実際、

僕が意図的に
この神様を
酔い潰れさせても
周りは誰一人として
気にかけていない

諏訪子様
夜風に当たって
酔いを醒まされては
いかがですか？

ううっ……



よし誰も
ついてきて
ないな

神様など
里のお偉いさんには
随伴者が
普段いるもんだが
今日は居ない

なんせ里じゆうで
宴会がある日だから
一つの会場に
二人も割いてなんて
いられないのだろう

おかげで
僕はこうして
諏訪子様を
お持ち帰りできる
って寸法だ

一年も待った……
今日は諏訪子様と
二人の時間を
存分に楽しむんだ！

さあ僕の家
に着いたよ諏訪子様

さてと……まずは
その可愛いお口に
特製のお菓子を
プレゼントしてあげる

ううん……

トザッ

びゅ

びゅ……

びゅ……

びゅ

ん……



さっきまで甘口の酒を
飲んでいたせいかな
諏訪子様の唾液
甘くておいしいよ

薬が効いてくるまで
少しだけかかるから

今のうちに
下準備でも
しておこうかな

諏訪子様の肌
すべすべで
気持ちいい……

下の口は……
おっ
もういい具合に
湿り始めているな

ゆっくり
ほぐして
……っと

ん……

あれ……
私どうして……
たしか
お酒飲んで……
……それからの記憶が無い

それに下がなんか
むずむずする……

んん……

んん……

んん……

さっ……

んん……

んん……

んん……

んん……

んん……

んん……

んん……

んん……

んう……

頭も……
ぼーっとする

おはようございます
諏訪子様

なに
これ……ッ!

しっかり
ほぐしましたので
痛みは無いと思います

あえ……
あ

わたし知らない男に
おち○ちん挿れられ
ちゃって……?!



諏訪子様の中
すごくうねってて…
僕のを感して
くれてるんだね

そんなわけっ…
ないでしょ…っ!

そんなこと言って
乳首も尖らせてる
くせに

くあうっ!

ひあっ!

あくっ!

体がぜんぜん
いうことを
きいてくれない

あんっ!

お酒のせいで
頭がぼーっとして
……これは
現実なの……?

ひあっ!





ね？
諏訪子様
気持ちいい？

きもち……いい？
無理やりされて
そんなわけ……

あんっ！



ひああっ！

諏訪子様
気づいてる？

さつきから
ずっと
喘いでるんだけど

うそ……！
私そんな……っ！

あああっ！



ほら
聞こえる？
この水音

これね
諏訪子様の
愛液が音を
出してるんだよ

やだあつ！
言わないで！

うそ……私……
感じてる……の？



こんな
濡らしておいて
感じてない
だなんて

諏訪子様は
嘘が下手だなあ

やだやだ
やだあつ！

耳まで
真っ赤にして
諏訪子様は
かわいいなあ

んっ！

やだ……
声が
抑えられない

んっ！



ほら
もっと素直に
なっがいいんだよ！

こんなの
絶対に
おかしいのに

やあつ！

身体が勝手に
喜んじゃってる
よお……っ！

あんっ！

とつても
酔いが回るから
すいぐ気持ちよく
なれるからね

直接
お尻からお酒を
飲んでもらおうねえ

うーん
まだ素直に
なりきれない
みたいだね

そういう子には
特別に……

はひっ!
ああああ……っ

濡れないように
指で蓋しておいて
あげるね

やああ……



諏訪子ちゃんの
ナカとつても
気持ちいいよ

君のこと前から
気になってたんだ

これからはさ
僕とずっと
一緒に暮らそうよ

むしろもう絶対に
帰さないから





ほら見て
こんなに
いっばい
出てるよ

愛してるよ
諏訪子ちゃん

おっ
おっ

おっ
おっ

おっ
おっ

おっ
おっ

おっ
おっ

僕たちの
相性
抜群だね

おっ
おっ

おっ
おっ



これ
どうすればいいか
わかるよね?

ほら見て
諏訪子ちゃん



はい……

……

……

そうそう
良い子だね

綺麗になったら
ご褒美にもう一回
してあげるから

頑張って
お掃除しようね



TohoProjectFanbook
『諏訪子様が酔いつぶれてたので…』
2017/10/15

